

アイティフォー

SIP 搭載でキャリアフリーを実現
無線IP 携帯と結ぶASP型サービスも提供



株式会社アイティフォー
事業本部 本部長 執行役員
真城和一 氏

IP ビデオフォン「ITfone シリーズ」は、業界で初めてSIPを搭載した。販売元のアイティフォーでは今後、主力製品である同シリーズを活用したASP型サービスの提供を計画。VoIPのトータルプロバイダーとしてさらなる飛躍を期している。

アイティフォー(本社・東京都千代田区)は、ネットワークシステム事業をベースに、金融業向け統合ソリューションシステム、CTIシステム、eコマースシステム、新流通トータルパッケージなどの事業を推進する。それぞれについて、上流コンサルティングからシステム構築、運用管理に至るまでをワンストップで提供している点が特徴だ。

中心となるネットワークシステム事業では、1972年の創業以来、他社に先駆けてLANシステムを手掛けてきた経験と技術力を背景に、「ネットワークのアイティフォー」として顧客から高い評価を得ているという。また、VoIPにもいち早く取り組み、VoIPトータルプロバイダーとして業界でも認知されている。

韓国メーカーと共同で
国内向けIPビデオフォンを開発

アイティフォーは今後、IPビデオフォンおよびSIPサーバーを核にVoIPソリューション製品ラインの拡充を図り、VoIPトータルプロバイダーとしての力を強化していく方針だ。

最初に、同社がIPビデオフォンを扱うに至った経緯を見てみよう。

ビデオフォンとの出会いは、20年前に遡る。まず、85年から米データポイント社のテレビ会議システム「MINXシステム」を販売した。その後、ISDNを利用した米ピクチャーテル(現ポリコム)のビデオ会議システムの輸入販売を開始。さらに、米アSEND・コミュニケーションが開発した複数のISDN回線を束ねて使うインバース・マックス装置を活用することで、

384kbpsでのビデオ会議を実現。64kbpsでの静止画に近い映像伝送に不満を持っていた顧客から高い評価を得た。

IPビデオフォンへの取り組みは2003年からだ。韓国のメーカーと共同で、国内向けの製品開発に取り組んだ。アイティフォーの執行役員で事業本部の真城和一本部長は、「世界でIPビデオフォンを手掛けているメーカーは5社以上あったが、このメーカーが最も高品質な製品を開発していた」と、パートナーを選んだ理由を語る。

両社は「ITfone 2000/3000シリーズ」を製品化。これを契機に今年1月に国内での販売提携を結び、同時にアイティフォーがこのメーカーに出資を決定。2月から販売を開始した。

さらにこの6月には、出張や旅行にも携行できる折りたたみ式の「ITfone 2100シリーズ」をラインナップに加えた。

使い勝手を徹底的に追求
相手の端末を自動判別

ITfoneシリーズの最大の特徴は、IPビデオフォンとしては初めて、オープンプロトコルのSIPを採用し、同時に提供するASP型サービスとともにキャリアフリー環境を実現したことだ。真城本部長は、「現在市場にある製品は、H.323をベースにしているため、専用の環境でしか利用できず、ユーザーに不便を強いている」と説明する。

アイティフォーでは、社内のIDCセンターに設置したSIPサーバーで呼処理を行うサービスを提供することで、ユーザーがどのキャリアのインフラを利用して

いても、相互通話ができるようにした。本社と支社で導入ネットワークのキャリアが異なるケースは多いが、そうした企業にも大きな訴求要因になる。

外線発信についても、同社が提携しているIP電話キャリアのネットワークを経由して、050番号による全国一律3分8.4円のサービスが利用できる。

使い勝手を徹底的に追求したことも、ITfoneシリーズのセールスポイントだ。通話相手が電話なのかビデオ電話なのかをSIPサーバーが自動的に判別するため、特別な操作を行うことなく利用できる。また、ベストエフォート型のブロードバンドネットワークに対応するため、ネットワーク環境が悪化してもそれを自動的に検出して最適な通信速度に切り替えるオートフォルダウン機能を装備した。さらに、通常は呼処理装置が処理する着信転送機能を単独で装備しており、ビジョ転送や話中転送を自在に設定できる。

無線IP携帯と組み合わせた
ASP型サービスを提供する

アイティフォーでは、ITfoneシリーズをIPテレビ電話やIPテレビ会議システム以

外の用途にも広げたい意向だ。例えば、現在問題になっている空き交番対策としても簡単に活用できる。真城本部長は、「子供からお年寄りまで、あらゆる世代の人が訪れるので、各種外部センサーの使用で自動的に本庁につながるような仕組みを取り入れた」としている。同様の仕組みは、生涯学習を推進し、年配者を受け入れている大学などにも適用できる。

相談窓口用端末としての利用も可能だ。各種金融機関の財産管理相談のように、専門家が必要な相談や遠隔医療相談などを視野に入れている。

また、ビデオオンデマンド(VOD)サーバーとの連携も可能なモデルも用意している。同社の提供するVODサーバーを使用することにより、インターネットを利用したビジュアルな通信販売環境も簡単に構築可能だ。

アイティフォーではさらに、業務提携を結んでいるネットツームの製品と、ITfoneシリーズを用いたASP型サービスを開始している。キャリアフリーという特徴を活かし、「いつでも、どこにいても使える」という点が大きなメリットになる



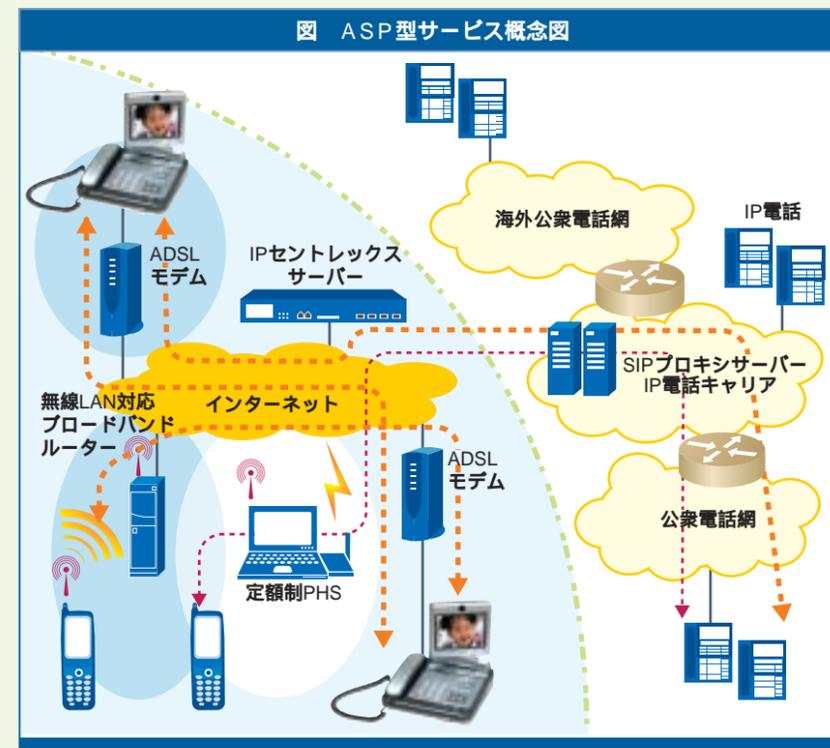
(真城本部長)という。

広域内線網でのIP電話、IPビデオ電話はもちろん、前述の提携IP電話キャリア網経由で外線通話も実現。公衆電話(PSTN)網や海外公衆電話網との接続も可能だ。

また、無線IP携帯端末との相互接続を実現しており、相手がどの拠点のどの場所においても、いつでも自由に通話ができる。

本サービスはまず、2万ユーザー規模のシステムで開始する予定。真城本部長は、ASP型サービスに利用しているSIPサーバーは拡張性に優れているので、かなりの規模になっても柔軟に対応できると説明する。

これらの取り組みにより、最新の「ITfone 2100シリーズ」を今後1年間で1万台販売する計画。真城本部長は、「すでにかなりの引き合いが来ており、十分に達成できそうだ」との見通しを語っている。



お問い合わせ先
株式会社アイティフォー
事業本部 商品開発室
TEL : 03-5275-7903
URL : http://www.itfor.co.jp/